

私のこころみ

## 幼児の生活から取材したお話 (3)

鈴木正子

おつきさまといっしょに

四才児向き

きょうは動物村の十五夜の晩のお話をいたしましょう。みんなもお月さまにいろいろなものをあげましたね。どんなものあげましたっけ。お月さまはとてもよろこんでいらっしやいましたよ。

動物たちもこんやが十五夜なので、お月さまにいろいろあげようとおもいました。そこで、いちばん先にやおやさんにでかけていききました。やおやさんには山からきたばかりのくだものや野菜が山のようにつんでありました。

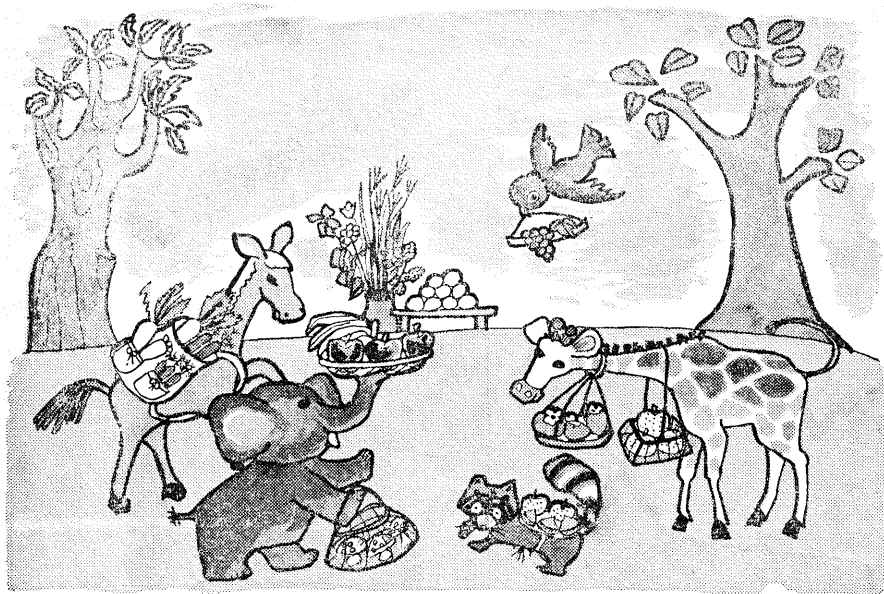
そうさんは長いのはなが大きなかごをのせて、まっかなりんごをかってきました。ことりさんはくちばしに小さなかごをくわえて白いこなのふいたむらさきのぶどうをかってきました。

うまさんは大きなリュックサックをしょって、にんじんとだいこんをかってきました。

きりんさんは長い首にかごをいくつもいくつもさげて、梨だの柿だのみかんだのをたくさんかかってきました。

それから動物たちは山にいつてすずきや花をとってきました。しおんだの、コスモスだの、しゅうかいどうだの、そしてそれを大きな花びんにさしました。それからおだんごもつくりました。動物たちはおおいそがしです。ゆうがたになると動物たちはかたちよく、すてきにそれらをみんなならべました。

そうしてお月さまが空にでいらっしやるのをまっています。でもどうしたのでしょうか。お月さまはいつまでたってもでいらっしやいません。



「どうしたんでしょねえ」動物たちはとうとうまっぴらにならなくなってしまいました。

「まあなくなってきめよ」動物たちはまるくなってさうだんしました。そしてことりさんがお月さまをむかえに行くことになりました。ことりは空をとべるからです。ことりはいっしょうけんめいにとんでいきました。でも、お月さまは遠くて遠くてたいへんです。

ことりは羽がいたくなるほど長い間とびました。そしてやっとのことでお月さまのくにつくことができました。

ことりが「お月さま、お月さま」とよぶと、お月さまはびっくりしてでていらっやいました。ことりが、

「お月さま、お月さま、こんやは十五夜ですよ。はやくいらしてくださいな」といいました。するとお月さまはたいへんよろこんで、「わざわざおつかいどうもありがとう。いまいこうとおもっていたところです。じゃあね、みなさんにこういってくださいな。こんやは私のところへいらっやいって、月のくにてあそびましょう」

さあそれを聞くとことりはおよろこび、

「うれしいな、うれしいな」と、とびまわりました。

ことりはおおいそぎで帰ってみんなに知らせました。みんなはおよろこび、すぐにしたくをはじめました。

ぞうは長いはなにりんごをいっぱい入れたかごをさげました。

こどりは小さなくちばしにぶどうをいれた小さなかごをくわえました。

うまはリュックサックに、にんじんや大根をどっこいしょといれました。

きりんは柿や梨をかごに入れてくびにさげました。みんなお月さまにあげるおみやげです。みんなは早くいきたいのでロケットのつていくことになりました。ぞうが、

「みんなしってるかい、月までいくと、水も、空気もなくて、ふわうかんじゃうだつてよ」といいました。

みんなは宇宙服をきていくことになりました。ぞう、こどり、うま、きりん、みんながつぎつぎにロケットにのりこみました。

さあいよいよ出発です。

「ぞうのロケット出発用意、ドーン」

「こどりのロケット出発用意、ドーン」

「うまのロケット出発用意、ドーン」

「きりんのロケット出発用意、ドーン」

どのロケットもぐんぐんお月さまのくいをめがけてとびました。たくさんのおほしさまがびっくりしてしまいました。

ロケットははやいはい、とんでとんでたちまちお月さまのくにつきました。

お月さまは月のくへの入口までおむかえにきていてくださいました。

「お月さま、こんばんは」動物たちはいちばんきにごあいさつをしました。お月さまは「よくきてくれましたね」とたいへんおよろこびになりました。

お月さまのくにはひるまのようにあかるくてピカピカでした。みんなはふわふわ、そろそろところばないようにあるきました。

みんなは持ってきたおみやげを、まんなかのテーブルのうえにのみあげました。

お月さまの光でりんごもぶどうも梨もみんなみんなキンキラキンキラと光りました。みんなはぐるつとテーブルをかこんで腰をかけました。

お月さまは、まず「おなががすいたでしょう」とおっしゃって、うさぎのつくったおだんごをごちそうしてくださいました。しろいしろいすべすべのおだんごです。

動物たちはおいしいおいしいとおなかいっぱいたべました。ぞうが三十、うまときりんが二十ずつ、こどりは十もたべました。

おだんごをいただいてしまうと、こんどはいろいろなことをしてあそぶことになりました。

動物たちはお月さまにようちえんでおそわったうたをきかせてあ

げました。ゆうぎもしてませてあげました。それから、このあいだのえんそくや、うんどうかいのお話もしてあげました。

そう、それから、かけっこもしてあそびました。

お月さまは

「ほんとうに、こんやはたのしい晩なこと」とよろこびました。

いつまでもいつまでも遊んでいると、どこからか時計の音がきこえてきました。

ようちえんのハトポッポの時計のようです。

かぞえるともう十時でした。

「もうかえらなければ」ときりんが長くびをまげていいますと、

「そうしましょう。そうしましょう」とみんなもいいました。もつ

ともつとあそんでいたかったのですけれど、またあしたはようちえんですもの、かえらないといけません。

お月さまが「またいらっしやいね」とおっしゃいました。「ええまたきつときます」動物たちはお月さまとゆびぎりげんまんをしました。みんなはまたロケットののってかえってきました。

みんなが家に帰ってお月さまをみあげると、お月さまは、まだにこにことみんなをみていらっしやいました。みんなは「お月さまあ、おやすみなさーい」といいました。お月さまもおやすみとおっしゃいました。

みんな家にはいつて眠ってしまいましたので「動物村の十五夜のお話」もこれでおしまになりました。

\*\*\*

\*\*\*

宇宙時代に生きる幼児たちにとってお月さまは、もう地上からはるかに見上げているものではなくなっていました。私はそんなことを考えながらお月見を中心としたあそびのひとつまにこのお話を加えてみました。そしてそれを劇あそびや動物村づくりなどにも発展させてみましたので、今回はその指導経過について書いてみようとおもうのです。

### 指導経過

○みんなと一緒にお話をきく。

あとの劇あそびを考えてゆうぎ室に集め、子どもたちがこの間経験したお月見をおもいださせながら話をすすめてみました。

○お話の中のできたもの、おもしろかったところなどについて話し合う。

四才児もこの頃になりますと大分自分のおもったことなどを発表できるようになりますが、まだまだ消極的な子どもがいるのでそういう子どもたちを取りこぼさぬよう気をつけ、どの子ども

もにもひとことずつ話をさせるようにしむけてみました。

○いま聞いたお話のおもしろかったところを動作や言葉やリズムで表現する。

ここでは幼児の創意をいかし、動作でも、言葉でも、すきに表現させ、たのしくあそぶことに重点をおきました。

あそびの順をおって大体のうごきを書いてみましょう。

・お話のなかのどこを話しかけてきめる。

・なりた動物になる。

ここではお話にでてこない動物がたくさんでてきてにぎやかな動物村になった。たとえば、たか、わし、くま、とら、ライオンなど。

また私は月になり「それからどうしたの」とか「こうしてくださいな」とかいてあそびの進行をうながした。

・動物の家をきめる。

あとの遊びがしやすいように室の中央をあげ、動物ごとに別れて家をつくった。家といっても椅子を使っただけ。

・曲に合わせておだんごをつくったり、お花を飾ったりする動作をする。

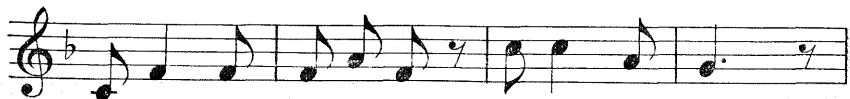
・ことりがお月さまをよびにいく(こどりの曲)。たかやわしも参加する。

## ロケットのうた

こどもと一緒につくったうた



ロケット ロケット はやいな



ロケット ロケット はやいな



ホントニ ホントニ はやいな

お月さまとお話をする。

・ことりたちの報告により動物たちの月にいく支度がはじまる。

・ロケットの曲にあわせて動物ごとに月の世界へとんでいく。

テレビをみているので、「10、9、8、7、6、5、4、3、

2、1、ゼロドーン」などといさませい。(前頁参照)

・お月さまのくにでいろいろなことをしてあそぶ。

・ごあいさつをする。おみやげをあげる。おだんごをいただく。

日頃のうたやゆうぎをする。えんそく、うんどう会、にちよう

びのお話をする。かけっこをするなど。

・時計の音(ピアノ)をきく。

・お月さまとなごりをおしめ、ゆびきりをする。

・ロケットにのって帰る。

・「おやすみなさい」で眠る。

ここでは同じゆうぎ室が動物村になったり、月の世界になったりして、たいへんたのしくあそべたような気がしました。私は今更のように幼児たちの想像力のゆたかさすばらしさに感心させられてしまいました。

○動物村をつくる。(お話をした翌日から約三日間)

教師があらかじめ、ぞう、くま、とら、ライオンなどのいろいろな動物をつくってならべておいてみました。昨日の劇あそび

との関連もあってか、子どもたちは早速製作にはいつてきました。いろいろの大きさの胴体だけをプリントしておいて動物の顔だけを自由にかかせてみました。

「だいたい動物ができ上がったところでテーブルの上に紙をしき、動物村をつくりました。動物の他に草・花・垣根・家・月・ロケットなどもでき、はじめての共同製作をたのしむことができました。

### おしまい

教師のお話づくりについて、三月号、五月号と書いてきました。

「お話というより散文詩のおいがする。しかし、それがいいところかもしれない」

「こういうお話ばかりでなく、もっと物語りのなものもかくように」

「せんせい、おもしろいの、ぼくのこといってらあ」

「なんだって、おはなしになっちゃうの?」

など、など私のお話づくりについて、いろいろいつてくださったひとたちの言葉をかみしめて、これからも、もっともつと書いていきたいとおもいます。

(群馬大学附属幼稚園)